第３８回九鼎会合宿

加島先生　症例検討

文責：森　ナオミ

【症例】80歳男性

【現病歴】数年前より軟便で、ここ1～2年は未明に便意・腹痛で目が覚め2～3回水様

下痢をすると症状は改善。近医で腹部エコー・大腸内視鏡施行されたが明らかな異常

なし。大腸内視鏡を受けた後で症状が増悪している。

【現症】寒い時期に症状増悪。冷え性。手足は冷たい。食欲は低下傾向。腹部は温め

ると調子がよい。下肢のむくみが軽度あり。腰痛あり。

脈診：両側脈沈、按じて無力

舌診：水滑、苔白薄、舌体：淡

**八綱弁証**

**裏，寒，虚**

　＊湿を実としてとる程ではない

**気血津液弁証**

**気・・・陽虚**

**津液・・（水湿内停）**

　＊湿の存在も頭に置いておく．書かなくてもよい．

**病邪弁証**

**内寒，（内湿）**

＊外邪として寒邪はとらない．内寒があるために，外寒に反応しやすくなっている

　＊実としてとっていないので湿はカッコ（）にいれておく．なくてもよい

　＊湿を入れるなら湿邪という表現ではなく，内湿とする

**臓腑弁証**

**脾腎陽虚**

＊五更泄瀉といえば腎が思い浮かぶが腎だけでは起こらない，脾と腎の両方が悪くなって起こる．

**治法**

**温補脾腎**

**漢方**

　**真武湯**

＊四神丸は脾腎陽虚の五更泄瀉に特に着目した方剤だが，真武湯と効果はそれほど変わらない．エキス剤として真武湯があるので，真武湯の方が，使いやすい．

＊附子理中湯は，脾陽虚メインの脾腎陽虚に，真武湯は腎陽虚メインの脾腎陽虚に使いやすい．水様性下痢の激しいものは，理中湯（人参湯）では効かず，真武湯が効くことが多い．